

アンディ・ウォーホル  
 パウル・ヴンダーリッヒ  
 ワシリー・カンディンスキー  
 エドアルド・キヨソーネ  
 ウジェーヌ=サミュエル・グラッセ  
 アラン・グリーン  
 ボール・ゴガン  
 ケーテ・コルヴィッツ  
 カミーユ・コロ  
 ウォルター・ジュール  
 オットマン・スモリツク  
 アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック  
 ソニア・ドローネー  
 ヘレン・ハイド  
 バプロ・ピカソ  
 ジョルジュ・ピゴ  
 カミーユ・ピサロ  
 ライオネル・ファイニンガー  
 フィンセント・ファン・ゴッホ  
 アントニオ・フォンタナージ

ワルワーラ・ブノワ  
 フェリックス・ブラックモン  
 フランク・ブラングイン  
 スタンレー・ヘイター  
 エーリッヒ・ヘッケル  
 キース・ヘリング  
 ジェームズ・ホイッスラー  
 アンリ・マティス  
 エドゥアール・マネ  
 アルフォンス・ミュシャ  
 エドヴァルト・ムンク  
 ホルスト・ヤンセン  
 ロバート・ラウシェンバーグ  
 パーヴェル・リユバレスキー  
 オディロン・ルドン  
 チャールズ・ワーグマン

豊崎  
 重欧堂田善  
 秋岡美帆  
 天野邦弘  
 天野純治  
 池田満寿夫  
 池田良二  
 石井柏亭  
 井田照一  
 歌川国芳  
 歌川貞秀  
 歌川豊春  
 歌川広重  
 二代歌川広重  
 三代歌川広重  
 榎倉康二  
 岡田龍夫  
 奥村政信  
 小作青史  
 織田一磨  
 小野忠重  
 恩地孝四郎  
 郭徳俊  
 葛飾北斎

加納光於  
 上矢津  
 河内成幸  
 岸田劉生  
 北岡文雄  
 喜多川歌麿  
 金宗学  
 木村光佑  
 木村秀樹  
 日下賢二  
 黒崎彰  
 淡斎英泉  
 合田清  
 児島喜久雄  
 小林清親  
 小林敬生  
 駒井哲郎  
 小山愛人  
 斎藤清  
 斎藤智

司馬江漢  
 島州一  
 周江豊  
 菅井汲  
 鈴木春信  
 関野準一郎  
 宋紫石  
 園山晴巳  
 高松次郎  
 竹久夢二  
 田中孝  
 田村文雄  
 戸張孤雁  
 永井一正  
 長岡国入  
 中林忠良

二村裕子  
 野田哲也  
 河東哲  
 萩原英雄  
 長谷川潔  
 浜口陽三  
 浜田知明  
 原健  
 平塚運一  
 日和崎尊夫  
 吹田文明  
 藤森静雄  
 松坂芳助  
 松谷武判

松本曼  
 宮下登喜男  
 横方志功  
 山口啓介  
 山本鼎  
 尹明老  
 横尾忠則  
 吉田克朗  
 吉原英雄  
 李禹煥

李棟  
 廖修平  
 若江漢子

# HANGA 東西交流の波

2004年9月11日(土) → 10月24日(日)

山口県立萩美術館・浦上記念館  
 HAGI URAGAMI MUSEUM

開館時間=9:00~17:00(入館は16:30まで)  
 休館日=毎週日曜日(ただし9月11日は開館)、  
 9月21日(火)、10月12日(火)  
 観覧料金=一般1000(800)円、学生800(600)円  
 \*(内220名以上の団体は半額です)  
 \*10歳以上と8歳以下の方は必ず無料です。  
 \*観覧料金は、観覧料金を含む。観覧料金は、観覧料金を含む。  
 主催=山口県立萩美術館、浦上記念館、東京芸術大学、  
 毎日新聞社、TYSテレビ山口、後援=萩市  
 出品協力=東京国立近代美術館

版画年04-05



# 版画

は複製可能な性質から、古来、東西文化交流の重要な担い手でした。鎖国下にさえ、版画と印刷本は出島から西洋のイメージを運び続け、蘭学や洋風画を誕生させたのです。

本展は、版画による東西交流をまず、江戸中期・後期の進取の気に富んだ蘭学者や浮世絵の町絵師たちの西洋遠近法研究から始めます。このような前史をみると、18世紀末、歌麿、北斎、広重に代表される黄金期の浮世絵が西洋に輸出されるや、たちどころに受け入れられた理由がわかるでしょう。黄金期の作品は、すでに西洋遠近法を日本化した、西洋人に理解しやすい自然主義的空間表現を獲得していたのです。

そのうえ浮世絵の主題は、遊女、役者、旅の風景といった、限りある現世(浮世・憂き世)の美と、そこに生きる喜びだったので、アカデミズムの歴史主義や教訓的倫理主義革新を意図する画家たちには、この上ない靈感源となりました。マネ、セザンヌ、ゴッホ、ファン・ゴッホらはみな浮世絵愛好者となり、浮世絵にヒントを得て西洋美術史を革新する作品を描きました。

さらに、これらの印象派を熱愛する日本人画家が、その影響下に創作版画の世界を発展させるのです。こうして交流は絶え間なく続き、第二次大戦後には「東京国際版画ビエンナーレ」を契機に、版画は現代の表現ジャンルに確固とした位置を占めるに至りました。

東京芸術大学にはこの版画交流史を記念する一台の銅版画プレス機が所蔵されています。それはかつてフランスのオーヴェール＝シュール＝オーワーズでファン・ゴッホの最後を取った精神科医ガッシュ博士の所有でした。版画家長谷川潔の手を経て芸大の所有に帰したこのプレス機は、寄せては返す波のような版画をめぐる東西交流の象徴です。この象徴を核として、第I部では江戸後期から創作版画時代までを、第II部では第二次大戦後から現在までの版画の歴史を振り返ります。多様な展開をお楽しみいただければ幸いです。



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》1831-34年、山口県立萩美術館・浦上記念館

フィンセント・ファン・ゴッホ《ガッシュ博士の肖像》1890年、東京芸術大学大学美術館



アンディ・ウォーホル《マリリン・モンロー》1967年、東京都現代美術館 ©The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts / ARS, NY & JVACS, Tokyo, 2004



歌川広重《名所江戸百景 亀戸梅屋舗》1857年、山口県立萩美術館・浦上記念館



長谷川 潔《二つのアネモネ》1934年、横浜美術館

棟方志功《二菩薩歌迦十六弟子》より、1939年、町田市立国際版画美術館



ロバート・ラウシェンバーグ《スカイガーデン》1969年、東京芸術大学大学美術館 © Robert Rauschenberg / VAGA, New York & SPDA, Tokyo, 2004



## 〔記念イベント〕

### ■ 記念講演会

①「医師ガッシュ旧蔵の木製銅版画プレス機を巡って—ファン・ゴッホ、長谷川潔、駒井哲郎」

中林忠良氏(東京芸術大学教授)

9月11日(土) 13:30-15:00

②「上方役者絵の歴史と特徴」

北川博子氏(阪急学園池田文庫研究員)

9月23日(祝・木) 13:30-15:00

\*いずれも当館講座室です。定員80名(受付先着順)、聴講は無料です。

### ■ 特別鑑賞会とミュージアム・コンサート

「版画にみる音の心象—現代箏曲による調べ—」

9月12日(日) 18:00-20:00(受付開始 17:30~)

展覧会特別鑑賞会 18:00-18:50/コンサート 19:00-20:00

出演=福永千恵子氏(箏曲家)

参加料=1,000円

\*参加料にて、コンサートと「HANGA 東西交流の波」展の特別鑑賞会をご覧になれます。参加希望の方は、氏名、住所、電話番号を明記の上、往復ハガキにて、9月3日(金)までにお申込みください。定員80名になり次第締め切らせていただきます。

お申込みとお問い合わせは〒758-0074 萩市平安古586-1 山口県立萩美術館・浦上記念館「HANGA展ミュージアム・コンサート」係 TEL 0838-24-2400、FAX 0838-24-2401まで。

### ■ 公開制作

「日本の水性木版画の技法」

10月10日(日)、10月17日(日) 午前 10:00-12:00/午後 13:30-15:30

講師=金 兌赫氏(版画家)

### ■ ギャラリー・ツアー

毎週日曜日11:00-12:00に、担当学芸員による作品解説を行います。

\*公開制作、ギャラリー・ツアーとも、観覧料が必要です。

### 〔交通のご案内〕

●JR東萩駅=タクシー7分/萩循環まあるバス20分/徒歩30分

●JR新山口駅=バス70分(萩バスセンター下車、徒歩15分)

●萩・石見空港=バス75分(萩バスセンター下車、徒歩15分)

●中国自動車道=小郡IC、美祿IC.各50分

山口県立萩美術館・浦上記念館

〒758-0074 山口県萩市平安古586-1

TEL 0838-24-2400 FAX 0838-24-2401

